

事業No.	155	事務事業名	担い手確保・育成支援事業				
基本目標	1	稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる					
年度戦略	④ ⑤	地域産業を支える担い手・企業人材の育成・確保 地域に根差した農林業の推進					
委員名	「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性		継続	改善有	改善無	見直し	次年度以降に対する判断
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略的事務事業は、年度戦略（小戦略）を実現するために妥当か。</li> <li>・実現するために見直しや改善点はあるか</li> </ul>						
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。</li> <li>・活動指標の4項目のうち3項目で実績が計画値を上回ると共に、実績も伸びており評価できる。特に JA と連携した1日農業バイトのマッチング件数の増加は、繁忙期の労働力確保につながっており評価できる。</li> <li>・今後も兼業農業従事者への支援、1日農業バイト参加者（バイトとはいえ農業に関心がある方）とのつながりや啓発、担い手確保を視野に入れた交流会や体験会の開催など、更なる就農支援に取り組まれない。</li> <li>・活動指標の新規就農者数が、自営と法人就農が一括りで計上されている。今後の動向を検証していく上では、それぞれに計画を立て実績をみていく必要がある。</li> </ul>		○				

事業No.	159	事務事業名	元気な農村づくり推進事業				
基本目標	1	稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる					
年度戦略	⑤	地域に根差した農林業の推進					
委員名	「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性		継続	改善有	改善無	見直し	次年度以降に対する判断
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略的事務事業は、年度戦略（小戦略）を実現するために妥当か。</li> <li>・実現するために見直しや改善点はあるか</li> </ul>						
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。</li> <li>・農村女性団体への支援など、女性の活動に視点をあてた点、下伊那農業高等学校と連携した調理実習などは評価できる。</li> <li>・市民農園については、継続的な運営ができていると感じるが、今後は各地区や団体での市民農園等の取り組みも視野に入れた事業展開、更なる遊休農地の活用に取り組みたい。</li> <li>・団体への固定化した取組み（研修、視察の支援）を見直し、高校生世代などを含めた交流の場の設定、「伝統野菜」（遠山郷二度芋、千代ネギ、小野子人参など）の情報発信、生産者の情報交換など、更なる展開を図りたい。</li> </ul>		○				

事業No.	161	事務事業名	農畜産物ブランド向上・6次産業化推進事業				
基本目標	1	稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる					
年度戦略	① ② ⑤	地域産業の育成による高付加価値化 地域経済循環の推進 地域に根差した農林業の推進					
委員名	「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性		継続	改善有	改善無	見直し	次年度以降に対する判断
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略的事務事業は、年度戦略（小戦略）を実現するために妥当か。</li> <li>・実現するために見直しや改善点はあるか</li> </ul>						
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。</li> <li>・市田柿の出荷量が増加傾向にあること、南信州地産地消推進協議会と連携し「まちの八百屋システム」の仕組みづくりができたことは評価できる。</li> <li>・南信州牛が関西地方（京都）での評価が高く、利用が多いことを多くの市民は知らない。南信州牛の価値を皆が共有できる、シビックプライドにつながる施策を展開されたい。</li> <li>・域産域消の食育店認定事業については、認定されてのメリットの明確化（ステッカー配布だけでなく、認定店の更なる広報や域産域消事業の推進など）が必要。また、消費者に対して域産域消の重要性を理解してもらえるような施策の展開に取り組みたい。</li> </ul>				○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内経済の循環の観点からも、食育店認定店舗数や八百屋機能を活用した店舗数については、更に高い目標を掲げ、域産域消の推進に取り組みたい。</li> </ul>

事業No.	173	事務事業名	森林づくり推進事業				
基本目標	1	稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる					
年度戦略	⑤	地域に根差した農林業の推進					
委員名	「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性		継続	改善有	改善無	見直し	次年度以降に対する判断
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略的事務事業は、年度戦略（小戦略）を実現するために妥当か。</li> <li>・実現するために見直しや改善点はあるか</li> </ul>						
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。</li> <li>・森林整備を行った民有林所有者への支援を行ったこと、路網整備ができず切捨て間伐となっている森林について、架線集材により搬出することで林地残材の解消や木材活用につなげる効果を確認できたことは評価できる。</li> <li>・一層の木材のカスケード利用の推進に取り組みたい。</li> <li>・森林の維持管理、担い手不足の解消へつなげるため「いいだ森林学校」等の活用、小中学校と連携した施策の展開を図りたい。</li> </ul>		○				

事業No.	179	事務事業名	森林資源活用推進事業				
基本目標	1	稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる					
年度戦略	⑤	地域に根差した農林業の推進					
委員名	「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性		継続	改善有	改善無	見直し	次年度以降に対する判断
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略的事務事業は、年度戦略（小戦略）を実現するために妥当か。</li> <li>・実現するために見直しや改善点はあるか</li> </ul>						
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。</li> <li>・飯田版 ZEH 仕様住宅に対する支援を拡充したこと、飯田市産材利用啓発活動補助金制度について工務店や設計事務所等に周知を行ったこと、飯田市産材を使って建てた住宅戸数の実績が計画を上回っている点などは評価できる。</li> <li>・一方で、現状は地元産材の利用が低く、安価な外材や他地域材の利用が多いため、住宅の新築・リフォームに対する補助金が予算額の半分にも届かない現状がある。森林整備や地域産材利用への理解を一層深めていただけるような施策の展開を図られたい。</li> </ul>		○				

事業No.	191	事務事業名	観光誘客推進事業				
基本目標	1	稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる					
年度戦略	⑥	アフターコロナの観光産業の推進					
委員名	「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性		継続	改善有	改善無	見直し	次年度以降に対する判断
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略的事務事業は、年度戦略（小戦略）を実現するために妥当か。</li> <li>・実現するために見直しや改善点はあるか</li> </ul>						
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。</li> <li>・令和4年度はまだコロナの影響が残っていたため、活動指標の実績の多くが計画値を下回っているものの、(株)南信州観光公社と連携し地域資源を活用したツアーを実施したこと、ツアー・オブ・ジャパンを地元等の協力を得て3年ぶりに開催できたことは評価できる。</li> <li>・一方で、農家民泊の受け入れ農家数が、R3は100件、R4は54件と激減していることは大きな課題。コロナ禍の影響や受け入れ農家の高齢化などさまざまな要因が考えられるが、グリーンツーリズムや体験教育旅行など、飯田市が農家民泊をはじめた原点に立ち返り、現事業にマッチした新たな受け入れ農家の発掘など、基盤整備に取り組まれない。</li> </ul>		○				

事業No.	200	事務事業名	産業振興事業				
基本目標	1	稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる					
年度戦略	① ② ③	地域産業の育成による高付加価値化 地域経済循環の推進 事業継続と新たなビジネスモデルの創出、事業再構築、起業家の育成					
委員名	「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性		継続	改善有	改善無	見直し	次年度以降に対する判断
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略的事務事業は、年度戦略（小戦略）を実現するために妥当か。</li> <li>・実現するために見直しや改善点はあるか</li> </ul>						
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。</li> <li>・ネスク飯田の受注額がコロナ前の水準を確保できたこと、製造業の展示商談会への出展数が前年度を大きく上回ったことなどは評価できる。</li> <li>・オープンイノベーションプラットフォーム構築事業の交流、連携をきっかけとして、今後更に多くの事業者が地域資源を活用した商品開発や販売に、連携協働し取り組んでいけるような施策を展開されたい。</li> </ul>		○				

事業No.	210	事務事業名	地域経済循環推進事業				
基本目標	1	稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる					
年度戦略	②	地域経済循環の推進					
委員名	「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性		継続	改善有	改善無	見直し	次年度以降に対する判断
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略的事務事業は、年度戦略（小戦略）を実現するために妥当か。</li> <li>・実現するために見直しや改善点はあるか</li> </ul>						
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。</li> <li>・地域産品の購入意向の実態を把握するため、新たに地域消費推進調査を実施したことは評価できる。</li> <li>・基本目標である「魅力ある産業」を考えた時、RESAS 地域経済循環マップ（2018年）から算出された飯田市の地域経済循環率 89.6%が全体を包含した重要な指標になっていると感じている。この指標を基盤として、農業、林業、商業、工業、観光等の業種や品目などの詳細、全体に対しての関連性などを紐づけしていくと、地域経済活性化プログラムの方向性が更に明確になってくると感じる。最新の地域経済循環率、またはそれに類似する統計があれば指標に加えられたい。</li> </ul>			○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・正確な実態把握と当市の現状を示す指標づくりは喫緊の課題であり、そのための予算計上も必要と認識。予算は最新の地域経済循環率、または類似する統計数値を把握するための費用（委託料・使用料）を想定。</li> </ul>

事業No.	34	事務事業名	リニア二次交通整備事業				
基本目標	13	リニア・三遠南信時代を支える都市基盤を整備する					
年度戦略	③	リニアの2次交通及び持続可能な地域公共交通の実現と、A I等の技術を活用したスマートモビリティの実装					
委員名	「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性		継続	改善有	改善無	見直し	次年度以降に対する判断
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略的事務事業は、年度戦略（小戦略）を実現するために妥当か。</li> <li>・実現するために見直しや改善点はあるか</li> </ul>						
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。</li> <li>・リニア駅から中心市街地までの接続・移動に自動運転技術を導入することを想定して、ルートの検討を行い、仮想空間上におけるシミュレーションを市内15kmで行い、対象区間の検証を行ったことは評価できる。</li> <li>・自動運転車両の導入については、利用データや手法など、日々進化をしていくことが推測されるため、常に情報収集しながら地域にマッチした導入手法を検証されたい。また、2027年を一つの目安とした場合の今後の方向性（スケジュール等）を示されたい。</li> </ul>		○				

事業No.	35	事務事業名	交通体系整備事業				
基本目標	13	リニア・三遠南信時代を支える都市基盤を整備する					
年度戦略	③	リニアの2次交通及び持続可能な地域公共交通の実現と、A I等の技術を活用したスマートモビリティの実装					
委員名	「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性		継続	改善有	改善無	見直し	次年度以降に対する判断
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略的事務事業は、年度戦略（小戦略）を実現するために妥当か。</li> <li>・実現するために見直しや改善点はあるか</li> </ul>						
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。</li> <li>・バスの乗り継ぎがネットで検索できるオープンデータ（GTFS-JP）の整備ができたこと、公共交通路線ごとの利用状況分析を行っていることは評価できる。</li> <li>・一方で、乗り合いタクシー利用者の減少が続いている。更なる分析を行い、引き続き交通弱者の支援に努められたい。市民生活に欠かせない持続可能な地域公共交通を実現するため、今後も事業を推進されたい。</li> </ul>		○				